

可茂農林事務所の普及活動状況（令和8年5月31日現在）

新たな担い手の確保

■水稲 「田んぼの学校」開講（アグリパーク構想）

美濃加茂市の「株式会社やまのはたへ」は、アグリパーク重点推進モデル実践事業のモデル地区に採択され、稲作初心者を対象とした「田んぼの学校」の参加者を募集し、受講者は21名となった。

5月7日に開催された第1回の講座では16名が参加し、稲作の基礎について座学で学んだあと、手播きによる籾まき体験が行われた。

農林事務所は、水稲栽培暦を活用して、生理生態や年間の作業計画等について解説した。参加者らは「機会があれば栽培に携わりたい」など、意欲的な発言が聞かれた。

「田んぼの学校」は、11月まで全8回開催され、初心者でも副業として稲作に関われるレベルの技術習得を目指している。農林事務所は、引き続き「田んぼの学校」の講師を務める等開催支援を行っていく。



【籾まきの実演】

■白川町有機の里づくり協議会 活動拠点開設に向けた検討会議を開催（アグリパーク構想）

白川町有機の里づくり協議会は、今年度アグリパーク重点推進モデル実践事業のモデル地区に採択され、黒川地区の研修施設「黒川Maruke」を拠点に、地元農産物の集荷・販売や体験・交流活動を通じ、農業参入の入口づくりに取り組んでいる。

5月15日には関係者による検討会議を開催し、デジタル地域通貨ポイントの活用など今後の事業推進について協議した。当日は農林事務所も参加し、支援体制や進捗状況、今後の計画について情報交換を行った。

協議会では、6月5日から試行的に拠点での集荷・販売を開始し、7月9日には本格的なオープンを予定している。

農林事務所では、今後もアグリパーク構想の推進に向け、モデル地区のPRや体験受入れ支援など、継続的なフォローアップを行っていく。



【事業検討会議の様子】

潜在力をフル活用した生産強化

■いちご いちご産地支援の取り組み

可茂管内のいちご生産は24経営体、面積4.7ha、うち共計出荷18戸、3haであるが、平成30年以降、新規就農11名のほか企業参入も4社あり、産地の若返りが進んでいる。本年も1名が規模拡大、1名が新規就農者認定に向け、農林事務所は関係機関・業者らとの打ち合わせを重ねて、綿密な事業計画の作成支援を行っている。

令和7年産も終盤となっているが、前半出荷量は昨年比150%、5月末で120%と好調である。近年秋の高温傾向が顕著だが、農林事務所は花芽の遅延防止のため、8月下旬以降の苗の窒素レベルの低減を目標に掲げ、苗の硝酸態窒素の測定、遮光資材の活用、ポットの昇温防止対策などに取り組み、今作は平均9月20日前後に花芽分化し、前半の収益確保につながった。一方、定植後は14戸の若手農家を中心に実証3年目となるグリーンな栽培体系加速化事業を活用して、アザミウマ類・コナジラミ類を対象とした新たな天敵防除体系の実証や、紫外線照射によるうどんこ病防除の実証にも取り組んだ。今作は特に春期の天敵追加放飼によって栽培終盤までアザミウマ類の抑制ができた事例が確認され、今後の普及拡大が期待される。

農林事務所では、今後も産地を担う新規就農者の育成やいちごの生産安定や品質向上を目指した活動を継続し、産地支援を行っていく。



【いちご本圃への天敵導入】

（園芸産地支援係）